

## (特非)法人兵庫県難聴者福祉協会とは

昭和40年頃から難聴者自身で活動が始まり、昭和60年に協会設立。平成13年にNPO法人として発足しました。

難聴になると、周囲とのコミュニケーション手段のズレから、疎外感を抱く事が多くなります。そこで、当会の目標に

## ひとひぼちの難聴者をなくそう！

を掲げ、交流を始め、行政と連携し、県内の難聴者の福祉向上・啓発活動をしています。(詳しい活動内容は中をご覧ください)

### ～全国に、県内に、広がる輪～

日本全国60にも及ぶ都道府県、政令市団体が加盟している(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会が、全国的な取り組みをしています。

兵庫県内の市町に16の地域協会があり、連携した活動を行っているほか、公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会、兵庫県要約筆記サークル連絡協議会と協働して、より良い活動に努めています。

## 聞こえにくい 聞こえない

## あなたに知ってほしい

## NPO があります

(特定非営利活動促進法(NPO法)に基づく特定非営利活動法人です)

相互交流はもちろん、あなたの趣味、特技、得意な事を要約筆者などの支援を受けて、NPOで活かします。

聴力の低下であきらめた事、もう一度、見つめ直してください。

手話ができなくても、お互い筆談で交流を。

また、会議には要約筆記者を付けて、参加できます。



聞こえの程度に関わらず、皆で交流し、活動できるNPOです。

## 特定非営利活動法人 兵庫県難聴者福祉協会

http://www.hyogoken-nancho.org/  
FAX 079—238—4852  
メール hnanchou@yahoo.co.jp

## 要約筆記者派遣をご存じですか？

聞こえない聞こえにくい方に、その場の話を文字にして伝える『要約筆記』を担う要約筆記者の派遣があります。

公費で派遣を受けられますので、市町の障害福祉担当者へお問い合わせください。

※条件により受けられない場合や、その他ご相談は、当協会にご連絡ください。

FAX 079—238—4852

## あなたも仲間になりませんか？

当協会は、要約筆記者の支援を受け、難聴者自身も難聴者の福祉向上のため、日々活動しています。

あなたができること、必ずあります。

交流で楽しみ、様々な事を分かち合うことも大切なことです。

ぜひ、一緒に難聴人生を楽しみましょう！

個人正会員 4,000円

個人賛助会員(1口) 2,000円

団体賛助会員 5,000円

★年4回、機関誌を配布します。

※当協会は活動団体であることから、学業に影響しないよう学生の方達の入会はありませんが、一般難聴者との交流は有意義との観点から交流会等には参加いただけますのでご連絡ください。

# ひとりぼっちの難聴者をなくそう！ = ユニバーサル社会へ！

高齢による難聴者が増えたことや、身体障害者手帳制度に該当しないレベルの難聴でも社会生活に困っている現状があります。

難聴になると、コミュニケーションがスムーズに行えないことや情報差から、自己の喪失や人間関係が希薄になることもあります。ただ「難聴」「聴覚障害」と称されるだけで、その影響には目を向けられていません。当たり前のように音声社会で様々な情報を得る事ができる時は気付きにくい事です。そういった点から、今の難聴当事者が、次の難聴者のために、聞こえにくくても聞こえなくても安心して楽しく暮らせる社会にするため啓発活動に取り組んでいます。当協会の目標「ひとりぼっちの難聴者をなくそう！」を達成しようとする事で、ユニバーサル社会実現への一端を担っています。

## \* 仲間の輪を広げるとともに、仲間と支援者の親睦を深めています \*

聴覚障害は「コミュニケーション障害」とも言われ、当事者間にしか分からない辛さもあり、「ひとりぼっちの難聴者をなくす」為に、輪を広げています。また、コミュニケーション支援を担う要約筆記者とも親睦を深めています。

交流部には、青年部・女性部・高年部等があり、月に1回程度 集まって楽しく交流しています♪

当協会や地域協会が主催する兵庫の集い・難聴者の集い・耳の日の集い、新年一日交流会などのイベントの全てに要約筆記者が付き、コミュニケーションをサポートします。



## \* 見た目では分からない難聴者・中途失聴者への理解と社会参加の促進 \*

- ①「耳元で大きな声で言えば聞こえる」「補聴器があれば聞こえる」という誤解  
⇒難聴の種類やレベルによって異なり、補聴器では対応できない難聴もあるという啓発
- ②お店への連絡方法が電話しかない・電車の車内放送が聞こえない  
⇒ユニバーサル社会として、FAXの普及・電光掲示板や災害時の可視化連絡の啓発
- ③生放送に字幕・手話が付かず、災害時でも何が起きているか分からない  
⇒聞こえない・聞こえにくい人を含めた社会の在り方への啓発



## 耳マーク

聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知してもらい、コミュニケーションの配慮などの理解を求めていくためのシンボルです

## \* 大切なコミュニケーション手段である要約筆記者の理解と利用の促進・養成講座への講師派遣、制度拡充への働きかけ \*

難聴者の耳代わりとして話を聞きとり、迅速に伝える「要約筆記者」の技能を習得された方々を”要約筆記者”と称します。多くの市町がコミュニケーション事業として派遣をしていますが、難聴者自身がその制度を知らず、利用が少ない地域があります。また、現場（主催者）の理解が得られない等、派遣を受けられないケースもあり、制度拡充に向けて協働しています。

次の難聴者のためにできること

